



1. 新保地区の果樹園近くの用水路に飛ぶホタル
2. 西条区「ホタルの里」に住むゲンジボタル
3. 間山区の篠井川

6月中旬からホタルの観賞会が市内各地で行われています。「新保ホタルの会」と「中野ホタルの会」の合同で行われた新保地区の観賞会。地区の子供たちも訪れ、100匹ほどのホタルを「飛んでるね」「きれい」と歓声を上げて観賞していました。

中野ホタルの会は「2010年にホタルマップを作成したが、数年がたち、ホタルが見られる地域が変わってきている」と話します。中野市では、畑の近くの水路や田んぼでもホタルが飛んでいるそうです。皆さんも身近にいるホタルをぜひ、探してみてください。

輝いていきます



少年野球チーム「オール平岡」

中野市少年野球チーム「オール平岡」の皆さんを紹介します。

数年前、平岡地区には4つの少年野球チームがありました。人数不足からそのチームが合併し、オール平岡が誕生。現在は、6年生から2年生までの17人の選手で活動しています。練習は、週3〜4回、平岡小学校のグラウンドで元気良く行っています。

2018年度のリーグ戦も開会し、練習は一段と力が入っています。また、監督やコーチをはじめ保護者の皆さまも指導や応援に情熱感たっぷりの雰囲気や力が伝わってきます。

チームの目標は「決勝トーナメント出場と優勝」を掲げています。ぜひ、目標に向かって頑張ってください。

編集委員 T&T

こんにちは

中町区

中町区は、市役所や中野陣屋を含む商店街と住宅地からなる戸数約350戸の地域です。

分館は、分館長と主事の2人を中心に区民の皆さまの積極的なご協力を得て、自治公民館として年間事業計画を立て、さまざまな行事を行っています。

ここで行事の一部を紹介します。体育・レクリエーション関係は、ソフトボールとマレットゴルフの2種目からなる親睦球技大会を主催。毎年熱心な愛好家約50人が参加し、レベルの高い大会となっています。

文化関係は、中町PTAと協力して祇園祭期間中に子供神輿巡行を行っています。中町区の小学生がほぼ全員参加し、町の中を子どもたちが大きな声で「わっしょい」と掛け声を上げて練り歩き、とても賑やかな神輿巡行です。また、夏にも中町PTAと協力して子供夏祭りも



昨年の中町子供神輿の様子

行います。陣屋前の広場で、分館がボランティアの協力を得て、たくさんの方の屋台やアトラクションを準備します。

秋になると、福祉関係の行事として、敬老会のアトラクションを企画運営します。敬老会には多くの出席があり、生バンドでのカラオケや子供たちのダンス、中町のダンス愛好会の踊りなどが披露されます。皆さん、楽しい時間を過ごされているようです。

毎年1月には、陣屋前広場において、伝統行事の道祖神祭りを開催。そこでは、区民の皆さまが積極的に運営に参加して下さる姿が見られ、地域の連帯を強く感じることが出来ます。

これからも区民の皆さまが自発的に活動に参加できる、開かれた分館を目指して事業を行っていきたいと思います。

分館長 井本英樹

ふるさとへの歴史

中野村

中町・西町の九齋市

江戸時代初期の年貢は粉など現物で納めるのが一般的であった。しかし、現物での運搬・保管は大変で、中野村周辺では粉を金に換えて納める方法(金納)に寛永10年(1633年)頃から変わった。そうなる年貢を換金する場が必要になる。年貢粉など穀物を中心に、その地域の特産物を換金する場として「市」は大変重要であった。

寛永10年、中野周辺の村の願望に、中野村知行の河野(藤左衛門)が、定期市を設定。それによると「月の1日、11日、21日の3回、西町に市を立てる。4日、7日、14日、17日、24日、27日の6回、中町に市を立てる」。これが、西町、中町合わせて月9回の九齋市の始まりである。

元禄6年(1693年)頃の九齋市の様子をみると、

市売買と、内売買の二つの商売の形があった。菘市は路上に菘を敷き、商品を並べて売買する形。当時、道の真ん中に川が流れていたため、川を背に両側での商売であろう。内売買とは常設店舗内での商売である。

従って、市日には路上や室内のいたるところで商売がなされていた。当時の村の様子を記した明細帳などによれば、時代により多少の差はあるが、市日になると、中野村や近在の農民は市場商人となり、塩、茶、油、木綿布、米穀、材木、女性の農間稼ぎの木綿、紬織りなど市に持参した。

山付きの村からは材木、板、薪、真菰、炭などが米穀類と交易していた。中野の「市」は、中野、山ノ内地域にとつてなくてはならない重要な交易の場であった。

編集 松沢邦男